

月刊

ENGO

クリスマス&新年号

2012年12月24日

カトリック大阪大司教区ENGOプロジェクト

発行責任者：松村繁彦

連絡先：TEL：090-5258-5704

(平日18時~21時)

FAX：06-7494-9845

e-mail: engo@osaka.catholic.jp

主の御降誕と 新春のお慶び申し上げます

2012年は、みなさまからお預かりしました義援金ならびに支援金と物資などのご厚意を被災された人たちや、現地で活動をされているボランティアの人たちにお届けすることができました。この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

世間では少しずつ被災地で起きた出来事や被災された人たちの事が忘れられてきています。そういった中でも、ENGOプロジェクトは微力ながらも復興・復旧に生きる人たちのために働いていきたいと思っています。今までつくられてきた絆を大切に、新たな絆を作っていくような架け橋としての役割を担っていきたいとも思っています。

また、現在ではENGOプロジェクトは大船渡ベース『いこいの家』(岩手県大船渡市)を中心に、宮城県・岩手県のボランティアベースの後方支援として活動していますが、ネットワークを使い他のベースキャンプとも連絡を取りあっています。これからも少しでも多くの情報をみなさまに伝えていけるように努めてまいります。

新しい年もENGOプロジェクトをよろしく願いいたします。そして引き続き、被災地への復興支援へのご協力もよろしくお願い致します。

さて今回は、片柳弘史神父(六甲教会)のご自身の活動リポートをご紹介します。今後の私たちの復興支援活動に多くのヒントを与えてくださっています。

「ふっこう」は「こうふく」への道 片柳弘史(神戸地区長)

神戸地区では2012年夏、福島の子どもたちを神戸に招き、神戸の子どもたちと一緒にとことん遊んでもらうためのプロジェクト、「ふっこうのかけ橋」プロジェクトを実施しました。



福島と神戸の
子どもたちの交流風景



「ふっこう」と平仮名で書いたのには、福島の「ふく」と神戸の「こう」を結びことで、「ふっこう」への道を歩んでゆきたいという思いが込められています。わずか4日間の神戸滞在でしたが、福島と神戸の子どもたち、子どもたちと一緒に福島から来たお母さんたち、そして参加したわたしたちすべての大人にとっても、一生忘れられないくらいすばらしい恵みのひと時でした。

その感動の日々が終わって、4カ月が過ぎました。先日、子ども向けテレビ番組の主題歌などを多数手がけておられる作詞家の先生に「ふっこうのかけ橋」の話をしたところ、「『ふっこう』は『こうふく』へとつながってゆきそうな言葉ですね」と言われました。さすがは言葉の専門家と感心しましたが、確かにその通りだと思えます。

聖書に「神の国は『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」(ルカ17:21)とありますが、福島と神戸で離れて暮らすわたしたちが「ふっこうのか

け橋」で結ばれたとき、わたしたちの「間」に、確かに「神の国」の喜びが現れました。わたしたちの幸せは、離れ離れの者どうしが互いの苦しみに関心を持ち、つながることから生まれるのです。ですから、「ふっこうのかけ橋」によってつながることで、わたしたちの間に「こうふく」が生まれたというのは確かに本当だと思います。



来年に向けて、架けられた「ふっこうのかけ橋」を歩き来するためのさまざまな可能性

が模索されています。今年の反省もふまえながら、いま考えているのはおよそ次のようなことです。

・小教区やブロックでの教会学校キャンプへの招待

今年は神戸地区 11 教会で地区合同キャンプを行い、そこに福島の子どもたちを招待するという形をとりました。数年に一度ならばそのような大がかりなキャンプも可能ですが、毎年は無理ということで、来年は小教区やブロックが行う教会学校のキャンプに、数家族ずつ分散して福島の子どもたちを招こうと考えています。

・教会の司祭館、信徒会館などを開放してのショートステイ

キャンプが難しい教会でも、無人になっている司祭館や畳敷きの信徒会館などを開放して、数日間、福島の家族を招待することはできるでしょう。来年は、その可能性も模索したいと思っています。

・福島へのスタディーツアー

「ふっこうのかけ橋」は、福島から神戸への一方通行ではありません。神戸から福島を訪れることがあってもいいでしょう。神戸の子どもたちを福島に連れて行くことは難しいですが、子育ての終わった大人などは現地に行って、放射能に汚染された大地に暮らす人々の生の声を聞き、現実を知る必要があると思っています。

・映画などの上映会

フィリピン、スモーク・マウンテンの人々の生活に密着したドキュメンタリー映画で世界的に高い評価を受けている四ノ宮浩監督が、福島をテーマにした映画「福島をわすれない」を作成しました。「ふっこうのかけ橋」でテーマ・ソングを作詞・作曲し、歌ってくださった音楽家のこいずみゆりさん(六甲教会信徒)がエンディングテーマを担当しておられるご縁もあるので、この映画を含めて福島と放射能汚染を扱った映画などの上映会をしてはどうかと考えています。

・原発や放射能汚染についての勉強会

今年も、神戸の子どもたちのために原発や放射能汚染についての初歩的な勉強をする機会を設けたかったのですが、時間切れとなりました。来年はぜひ実現していきたいと思っています。

・メールや手紙などによる交流

直接の往来と並行して、インターネットを使ったり、クリスマス・カードを送りあったりすることによる交流もできるでしょう。いつも福島の子どもたちのことを心のどこかにおき、「かけ橋」を守っていきたいと思います。



パネルの貸出しについて

この一年間、多くの方々にパネルを利用して頂きました。ありがとうございました。これからも多くの方に利用して頂きたいと思っていますが、パネルの内容は震災から約半年の間に撮られた写真をもとにして作られています。その点をご了承くださいますようよろしくお願い致します。

ご利用ご希望の方はお気軽にご連絡をください。



(A3版 28枚セット)